

2021/12/25

(うときゅういっきの「これから」これからは)

冷蔵庫の中が空っぽであれば話は別なのですが、例えば冷蔵庫の中にある程度のストックがあったとして、

それでも

「今日は麻婆豆腐を作るつもりだから、豆腐とひき肉と長ネギと麻婆豆腐の素を買いに行かなくちゃ」

という人もいますし、

「冷蔵庫の中に使い残しの白菜と大根とシイタケがあるから今日は肉、魚なしの寄せ鍋でも作るか。でも蛋白質なしじゃまずいから豆腐でも入れておくかな」

という人もいます。

以上は料理の例ですが、他にも

「自分は外資系の企業に勤めて国際舞台でバリバリ活躍するビジネスパーソンになりたいからビジネススクールに通って英検の資格も取らなくちゃ」

というしっかりとした将来像を描く人もいれば

「とりあえず字は読めるし文字も書ける。話も結構できるし人懐こくもある。さて是で何ができるだろう？犬も歩けば棒に当たるといふから、是又とりあえず散歩にでも出かけてみるか」

という旗から見ても「ほんま、こんなんでもこの人、大丈夫なんかい？」というお気楽満点な方もいらっしゃいます。

以上はかなりデフォルメした例ですが要するに世の中には

「将来こうなるにはどうすればいいか？」

と考える傾向の人と

「今あるのは是とこれ。で、今ならそれを使って何ができるか」

と考える傾向の人の二通りがあるようです。

比較すると前者がスタートラインにつけるのは将来。是から買い物に行くのとビジネススクールを卒業し英検をとってから初めてスタート。

後者の場合スタートラインにつけるのは今からでも可能。冷蔵庫にストックは揃っているし資格を取る迄待たなくてもいい。即刻即日始められる。

それで思ったのですが今迄の社会というのは前者タイプで、

理想を目指して新しいものを「付加的 additional」に作り出してきた社会。

で、これから地球と折り合いをつけていくには今後の社会というのは

今あるものの利用価値を再度全て見直して「追加的 additional」なエネルギーの使用を極力抑える社会

に変換していかなくてはならないのではなからうか？と。

例えば CO2 削減の為に火力発電を抑制する傍らで CO2 の出ない原子力発電に新たに投資

をして切替たにも拘らず総量として却って膨大な電力を使う事になってしまったり、デジタル化進展の為に暗号資産である仮想通貨を導入したはいいが採掘 (mining) の為に是また膨大なエネルギーを要してしまう羽目になったりと、新しく切り替える事に価値があってそれを達成する事自体が自己目的化してしまう全体最適 (共助) を見ずに近視眼的に部分最適 (自己都合) にばかり囚われた結果、意図に反比例して追加的なエネルギーを増々発生させてしまっていたのが今迄の発想とそれが産み出した現代社会ではなかったのかと。

であるなら是からは今迄既に産み出してしまったもの、例えば CO2 を資源化できないか？とか、大量に発生したイナゴを食料化できないか？という様な類の発想の転換が必要な気が致します。